



学校の教育目標にある「創造」について深掘りします！今回で学校教育目標の解説は終了です！

保護者の皆様へ、学校教育目標である「自立・協働・創造」のうち、特にこれからの予測困難な時代を生き抜く鍵となる「創造」について、その意味と大切にしたい視点をお伝えします。

1なぜ、今「創造」なのか？

かつての「正解」を効率よく導き出す力は、今やAI（人工知能）が最も得意とする分野になりました。2026年現在、私たち大人が経験してきた以上に、社会の変化は加速しています。これからの子どもたちに必要なのは、「答えのない問い」に対して、自分たちで新しい価値や解決策を生み出す力、すなわち「創造性」です。

2学校教育における「創造」の深掘り

「創造」と聞くと、芸術的なセンスや特別な才能を思い浮かべるかもしれませんが、しかし、教育目標における「創造」は、もっと広くそして身近で、誰にでも芽生える力です。

- ①問いを立てる力：「なぜ？」「もっと良くするには？」と現状を疑い、自分なりの課題を見つける力です。
- ②多様な視点を組み合わせる力：自分の知識と、友達のアイデア、あるいはデジタルの情報を掛け合わせて、新しい「気づき」を作ることです。
- ③失敗を恐れず試行錯誤する力：一度で成功することよりも、失敗から学び、「次はこうしてみよう」と改善を繰り返すプロセスそのものを「創造」と呼びます。

3「自立・協働」とのつながり

「創造」は単独で存在するのではなく、他の2つの目標と密接に関わっています。目標創造との関わり自立誰かに指示されるのではなく、自分の意思で考え、動くことから創造が始まります。協働については、自分一人では限界があっても、対話を通して異なる意見を混ぜることで、より大きな創造が生まれます。「自立」して「協働」し、その先に新しい価値を「創造」する。これが、本校が目指す子どもの姿です。

4ご家庭で大切にしていきたいこと

創造性を育むために、日常の中で以下のことを意識していただければ幸いです。

「正解」を急かさない：子どもが悩んでいる時、すぐに答えを教えるのではなく「どうすればいいと思う？」と一緒に考える時間を大切にしてください。

「おもしろい失敗」を称える：結果がうまくいなくても、その過程で試した新しい工夫やアイデアを肯定してあげてください。

「なぜ？」を面白いがる：子どもの素朴な疑問は、創造の種です。「忙しいから後で」ではなく、「面白いところに気づいたね！」という共感が、知的好奇心を伸ばします。学校と家庭が手を取り合い、子どもたちが自分たちの手で未来を創り出していけるよう、温かく見守っていきましょう。

未来を創る力：予測困難な時代に不可欠な「創造性」の育て方

AIの普及により「正解」を出す価値が変化中、自ら問いを立て、新しい価値を生み出す「創造性」が重要視されています。本校の教育目標「自立・協働・創造」の集大成としての「創造」の定義と、家庭でのサポート方法をまとめました。

